

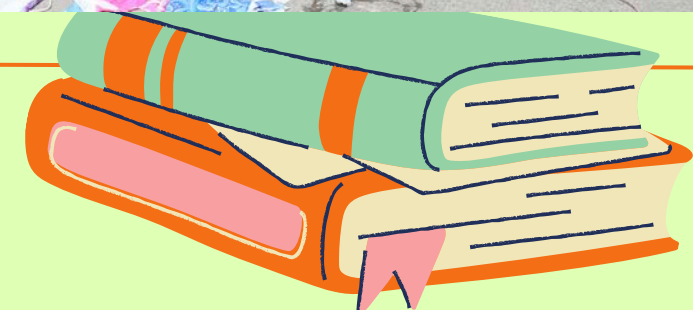
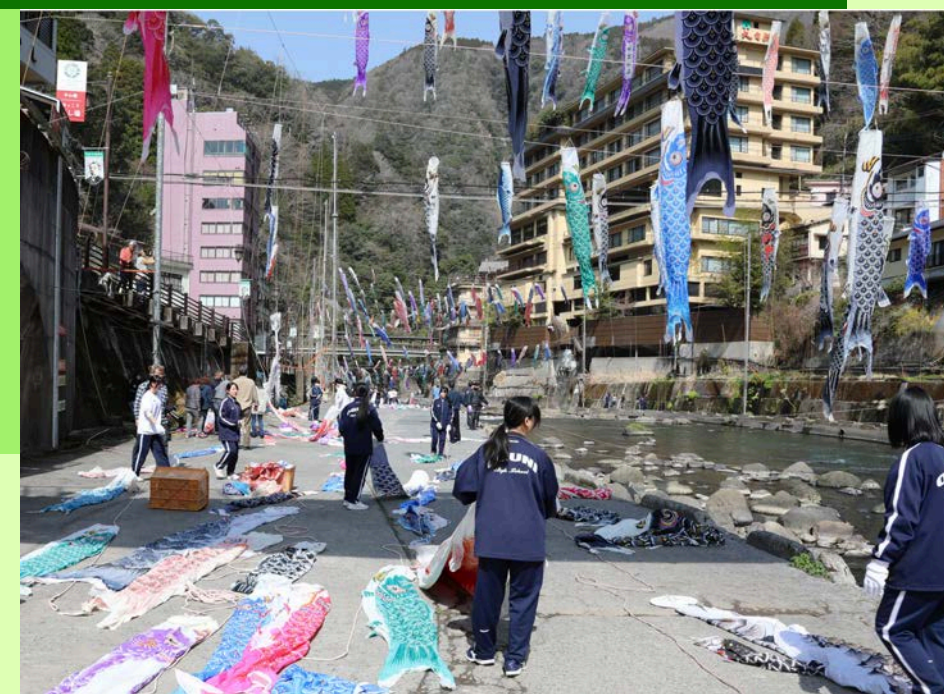
令和6年度(2024年度)読書教育重点校活動報告

熊本県立小国高等学校



本校は、熊本県の最北端、阿蘇外輪山の北側にある小さな町の中にある高校です。山の起伏の激しさや山道の距離のため、自転車や原付での移動には限りがあります。公共交通機関もあまりないため、子どもたちの移動はもっぱら保護者の送り迎えを頼っています。

そのような状況であることと、町にあった書店が昨年度閉店したことも加えて、子どもたちが直に本を手にする機会は図書館(町・学校)だけとなっている状況です。



図書館の状況

学校図書館としては規模も予算も少ないことから、資料が潤沢とはいえませんが、県立図書館提供の電子図書館の利用や、学校間の相互貸借といったサービスを利用して、生徒の読みたい本の提供を行っています。

また、生徒一人一人に配付されているChromebookを活用してもらえよう、学校内図書館サイトを作成し、いつでも小国高図書館の蔵書検索や電子図書館の利用をしてもらえる体制を整えました。役に立ちそうなサイトのリンクなども掲載しています。



図書館サイトTOP画面



館内の利用

図書館は、教室棟と理科棟や家庭科棟を結ぶ通路沿いですが奥まった場所にあるので、まずは図書館の存在感を示すような入口前の装飾を心掛けています。

OT(おぐに・たいむ)という自習時間の活動や放課後の学習会の会場に図書館を利用してもらったり、授業の利用でも使ったりなどして、生徒に「ココに使える場所がある」と認識できるようにしています。最近は、放課後に図書館で勉強をしている生徒と、それを覗きに來ては、生徒に質問され勉強を教えている先生方の姿が見られます。

奥まった場所にドアがあるので入りにくいという声も聞かれますが、このドアをできるだけ開放したり、昼食を図書館でとることができるようにしたりしたことで、気軽に図書館に足を踏み入れてもらえる回数が増えたように感じます。

今後の取組

「図書館＝本を借りねばならない＝本は苦手＝図書館に行きたくない!」と図書館を苦手になっている生徒も多くみられるので、まずは図書館への苦手感をなくしてもらおうような取組を考えていきたいです。図書委員会活動として2カ月に1回の図書館での宝(チョコ)探しイベントを行って図書館へ誘ったり、ノベライズや漫画など文字に忌避感の少ない図書をわかりやすい場所に展示したりしたことで、生徒が来館しやすい環境を作っています。

本校では朝の読書時間もあるので、一斉読書を行ったときには、3行感想を書いてもらい、それを貼りだして生徒たち同士で共有してもらったりもしました。まずは、手に取りたい「読みたい本」を探すための情報と、それを興味の薄れないうちに手にとることができるように図書館が手を尽くしていきたいと考えています。

